

所 報

◆昭和43年度予算概算要求について

当研究所昭和43年度予算概算要求の内訳は次のとおりである（カッコ内は政府補助金）。

(項)管 理 費	千円	千円
	374,664	(306,324)
(項)資料活動事業費	38,774	(38,774)
(項)国内調査事業費	54,183	(54,183)
(項)海外調査事業費	24,815	(24,815)
(項)広報活動事業費	66,013	(66,013)
(項)海外派遣員派遣事業費	108,251	(108,251)
(項)電子計算機事業費	56,837	(56,837)
(項)情報機械検索事業費	9,406	(9,406)
(項)統計事業費	42,624	(42,624)
(項)海外投資調査事業費	23,221	(23,221)
(項)中国総合研究事業費	50,388	(50,388)
受託調査事業費	32,623	(32,623)
予 備 費	9,713	(9,713)

支 出 合 計 891,512(780,836)

なお、この要求総額は、昭和42年度予算(千円717,492)に比して24.2%の増である。

◆参与会の開催

8月18日、中央研修センターにおいて、下記のとおり参与会が開催された。

出席者 参 与 側：牛場外務，武田農林，山本通産，川出経企各事務次官，笠朝日新聞社顧問，堀江東京銀行会長
 研究所側：小林会長，東畑名誉所長，小倉所長，渋沢，田島両理事，渡辺監事

議事概要

小林会長の挨拶に引き続き、つぎのとおり審議が行なわれた。

(1) 昭和43年度予算概算要求について

渋沢理事から、重点項目である第2期ビル建築，電子計算機の導入，中国総合研究等についてそれぞれ報告が

あった。

(2) 昭和42年度事業について

田島理事から、昭和42年度事業概要について報告があった。

(3) その他

シベリアの資源調査，地質調査などの基礎調査の可能性等について意見の交換が行なわれた。

◆在外職員の動き

(1) 出 発

氏 名	派遣地	課 題 名	出発月日
徳田教之	バークレー	「国家建設における中国共産党の指導体制の原理と動態」	8月11日

(2) 帰 国

氏 名	派遣地	課 題 名	帰国月日
野中耕一	バンコク	「タイの経済開発—とくに日タイ経済協力の視点より—」	8月6日
大内 穂	ニューデリー	「インド国民会議派政府の産業政策」	8月17日

(3) 出 張

氏 名	出 張 目 的	出張地	期 間
深沢八郎	シンガポール市場におけるゴム取引商業組織の調査およびマラッカ，ジョホール，サバの生産者出荷状況調査	シンガポール，マラッカ，サバ	8月1日 ～8月25日
堀井健三	ケラントン州における米作村の実態調査	ケラントン州カタバル村	8月8日 ～10月7日
徳田教之	第27回国際東洋学会会議出席およびワシントン，ニューヨークの中国関係資料調査，研究機関訪問	アナーバー(ミシガン大学)，ワシントン，ニューヨーク	8月12日 ～8月27日
林 晃史	100万エーカー入植地予備調査	Kitale, Kericho	8月23日 ～8月26日

◆外国人の来訪

8月中の海外からの来訪者はつぎのとおりである。

- (1) 7月6日(先月の外人来訪者の追加), Dr. Vernon W. Ruttan (Head of Department of Agricultural Economics, University of Minesota) が来所。東畑名誉所長, 調査研究部職員と懇談した。
- (2) 8月1日, Mr. Theodore F. Welch (Regional Librarian, American Cultural Center) が, 当研究所図書資料部見学のため来所, 図書資料部中村次長, 高林収集課長と意見の交換を行なった。
- (3) 8月4日, Mr. Gordon A. Bennet (University of Wisconsin, Department of Political Science) が当研究所の見学(特に中国研究の現状と中国関係資料について)のため来所, 根岸調査業務部長, 高林図書資料部収集課長, 調査研究部関係職員と懇談した。
- (4) 8月7日, Mr. Victor M. Fic (Professor, Department of Government and Administration, Nanyang University) が当研究所見学のため来所, 東畑名誉所長, 梶田図書資料部長, 高林図書資料部収集課長ほか, 図書資料部職員, 動向分析部職員と懇談した。
- (5) 8月19日, Prof. B. Schwarg (Harvard University) が中国研究者との意見交換のため来所。「文化大革命の背景」と題して講演を行なった。
- (6) 8月23日, Dr. V. Dutt (Chief, Dept. of Chinese Studies, University of Delhi, India) が来所。
(i)当研究所の中国研究の現状, (ii)日本経済の当面する問題について, 田島理事, 林図書資料部参事, 調査研究部関係職員と懇談した。懇談ののち, 図書資料部を視察した。
- (7) 8月24日, Mrs. Celia Ribeiro Zaher (Director of Bibliographical Division, Brazilian Institute of Bibliography & Documentation (IBBD)) が, 専門図書館としての当研究所図書資料部のドキュメンテーション活動視察のため来所。梶田図書資料部長ほか関係職員と懇談した。
- (8) 8月24日, Mr. B. Hayward (OECD 事務局, 教育投資開発部長) が来所。豊田総務課長, 田部経済成長調査部主任調査研究員ほか関係職員と研究所の調査活動とくに「アジアの開発とマンパワー問題」の研究について討議した。
- (9) 8月25日, Mr. C. K. Seal (Asian Regional Adviser of Manpower and Training Projection) が来所。

アジアにおける労働力計画作成のための方法論について田部経済成長調査部主任調査研究員と意見の交換を行なった。

◆出版案内

1. 『海外経済資料』第4巻第6号
2. 「アジアを見る眼」シリーズ 14『メコンとイラワジの間』今川瑛一

◆削除

前号の中岡三益「アラビア半島市場調査団に参加して」109ページ右欄1行目の「その他にガルフ土侯国経済援助基金がある。」という文章を削除いたします。

◇次号予告◇

- イランの農地改革について考える
—オムデマレキのデヘ(むら)の事例をめぐって—……………大野盛雄
エジプト企業家ノート
—タラアト・ハルブの場合—……………鈴木弘明
19世紀後半エジプト国家財政の破産……………石田進
カンボジアにおける農業水利事業の歴史的展開……………高橋保
- 資 料
インドにおける20財閥の所有と支配の構造
—R・K・ハザリ報告を中心として—…西口章雄
インドの第4回総選挙の分析(II)
—連邦下院選挙を中心として—……………森利一
- 研究機関紹介
アメリカにおけるイラン研究……………岡崎正孝
- 書 評
J・J・カプラン著『外国援助の挑戦—政策, 問題, 可能性』……………藤森英男
W・シュラム, D・ラーナ編『開発途上国におけるコミュニケーションと変革』…崎山昭治
A・M・カマーク著『アフリカ開発の経済学』…細見真也
A・ノヴォ, J・A・ニュース共著『ソ連の中東—経済発展のための共産主義モデル』……………丸毛茂
- 現 地 報 告
中東戦争とイスラエル……………大岩川和正
アラブの石油政策散見……………岩永博